

木材プレカット加工工場からのご案内



(株)ひらい
プレカット部 齋藤 陽一

プレカットという言葉は、木造建築業界の中で今では当たり前に使われています。言葉の通り、木材に仕口と呼ばれる接合部の加工をプレ(事前に)カット(切る、加工する)という意味ですが、1989年頃から普及が始まって約35年、プレカット業界は日々進歩を続けております。

今回は約20年間、プレカット事業に従事してきました私齋藤よりプレカットに関するお話をさせていただきますので、今後の木造建築の参考にさせていただければ幸いです。



仕口の一例

プレカットされた建物

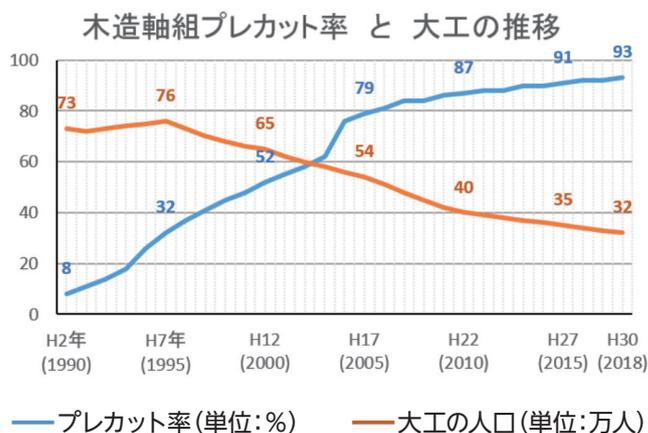
1. プレカット業界これまでの経緯

木造建築にて今では欠かすことのできないプレカット。普及し始めの頃は今のプレカットからは考えられないほどアナログなものでした。工場加工して、現場に納品するという自体は今のプレカットと変わりありませんが、全自動の機械ではなく、作業員が木材に対して仕口一つ一つに墨を付け、単体の機械で人手を使って加工していました。

そこから少しずつ全自動化が進み、加工できる項目も増えてきました。それに併せて、構造材だけではなく羽柄材、床合板、野地合板と加工できる部材も増えてきました。建築業界という長い歴史がある中でもまだまだ歴史が浅いプレカットですが、日々進歩を続けています。当初は大工の技術には到底敵わないと言われていた

プレカットも、今では精度、技術共に大工を上回るものとなってきています。

なお、プレカットの普及率に関しては、わかりやすいデータがあります。グラフを見るとプレカットは1989年頃に始まって普及率は右肩上がりですが、それに反比例して大工の人口が減少しています。今後も職人不足は進むと予想されるため、よりプレカットの重要性は高まるものと思われます。



2. プレカットの活用に関して

プレカットは木材の加工という業種から、木材、構造、関連事業に関しての情報が非常に集まりやすくなっています。木造建築を設計する際に良きパートナーになり、設計事務所様の支援につながるのもプレカット工場の強みだと思っています。以下に関してはその一例となりますのでご参考にしてみてください。

①流通材を知っている

プレカット工場では毎日大量の木材を仕入れております。もちろん価格を意識して仕入れており、一般的には流通材を多く利用しておりますので、どのような木の種類が、どのような材寸が流通材であるかを熟知しています。

流通材と特注材では価格の差が大きく、下手な材寸や樹種を使用してしまうとコストがものすごく高くなってしまいますので、流通材を確認したい場合などはプレカット工場に聞くのが一番確認しやすい方法かと思えます。